

研究指導の概要

■ 数学学位プログラム

【課程：博士前期課程】

学年	学期 モジュール		研究内容及び指導方法等
1 年 次	春	A	- 各研究分野で指導教員の決定。 - 指導教員の下で議論等を通して、研究テーマを決定し、研究に関する文献の講読を始める。（当該分野の「特別研究IA」の履修） - 授業科目の受講(研究のための基礎科目等の履修、当該分野の専門科目等の履修（「数理物質科学コロキウム」は必修）
		B	
		C	
	秋	A	- 各研究分野で指導教員の指導の下、研究に関する文献の講読を進める。（当該分野の「特別研究IB」の履修） - 授業科目の受講(研究のための基礎科目等の履修、当該分野の専門科目等の履修)
		B	
		C	
2 年 次	春	A	- 各研究分野で指導教員の指導の下、研究に関する文献の講読を進めつつ、修士論文の研究テーマを決める。（当該分野の「特別研究IIA」の履修） - 授業科目の受講(研究のための基礎科目等の履修、当該分野の専門科目等の履修) - 春学期末に分野毎に、修士論文中間報告会を実施する。 - 春学期末に中間時達成度評価を実施する。
		B	
		C	
	秋	A	- 各研究分野で指導教員の指導の下、修士論文のテーマに関する研究および論文の執筆を進める。（当該分野の「特別研究IIB」の履修） - 授業科目の受講(研究のための基礎科目等の履修、当該分野の専門科目等の履修) - 秋学期末に学位論文の公開発表会を行い、学位論文を審査する。 - 秋学期末に修了時達成度評価を実施する。
		B	
		C	

数学学位プログラム研究指導計画について

数学学位プログラムにおける学位取得に向けた研究指導は以下の計画に沿って行われることが基本である。ただし個々の学生の事情によって大幅な変更もありうる。

1. 前期課程

1 年次は研究手法を学ぶための基礎教育に充てられる。基本文献の購読が基本とするが、一方で様々なセミナーに出席し研究の前線についての視野を広める。1 年次後半から 2 年次前半にかけて具体的な研究テーマを決め、より専門的な技法を学び最新の知見について情報を得る。2 年次春学期末頃に中間報告を行う。2 年次秋学期から修士論文執筆に向けた考察及び情報収集を行う。

修士論文発表会に先立って、Tsukuba Workshop for Young Mathematicians で発表することが推奨されている。

2. 後期課程

後期課程は博士論文を提出するための研究が主たる活動である。後期 1 年次よりそれぞれの研究に沿った研究セミナーを行う。数学学位プログラムでは学位審査を受けるためには、2 編の論文を執筆し、1 編は掲載が決定していなければならない。論文査読には時間がかかることは普通であるから、早い時期に論文として提出できる結果を得ることが望ましい。後期 2 年次春学期終了時に中間発表を行う。後期 3 年次後半に学位審査申請・予備審査・本審査を経て合格すれば学位を取得できる。

3. 「学位論文に係る評価の基準」については[大学院スタンダード](#)、研究指導科目の詳細については、[シラバス](#)を参照すること。

4. 単位取得のモデル（詳細は大学院便覧参照） 太字は研究指導科目

a) 博士前期課程

【1 年次】

数理工学基礎科目（必修）、オムニバス講座（1 単位）

数学インターンシップ（1 単位）、**専門別特別研究 A・B**（計 6 単位）

数学授業科目（1 2 単位）、集中講義（1 単位）

【2 年次】

専門別特別研究 A（3 単位）：春学期中に研究計画発表

数学授業科目（3 単位）、プレゼンテーション・科学英語技法（選択 1 単位）

専門別特別研究 B（3 単位）：秋学期に修士論文作成・発表会

b) 博士後期課程

【1 年次】 特別研究 A, B（計 6 単位）

【2 年次】 特別研究 A, B（計 6 単位）

【3 年次】 特別研究、特別研究 V A, V B（計 6 単位単位）

秋学期博士論文作成・審査場合によって早期修了も可能